

## 明治2年三田藩一揆を考える

神戸大学大学院人文学研究科 奥村 弘

### ○一揆の概略

- 1 1月15日 同日三輪地区の上野原で2万人と称される集会を開催、九鬼隆義・白洲退蔵ら一揆勢を説得にいくが失敗
- 1 1月16日 一揆勢三田町に入り、町方有力者を打ち壊す。その後藩庁と交渉を開始  
町方被害総額一万両とも二万両とも
- 1 1月26日 上野原で郷中で総代集会
- 1 1月29日 三田藩、総代集会での要求事項について百姓呼び出し
- 1 2月 8日 京都弾正台一行3名が三田に到着 百姓、代官ら呼び出し  
1 4日 白洲退蔵呼び出し
- 1 2月15日 白洲退蔵大参事が書類を提出
- 6 月10日 白洲退蔵ら西京弾正台から出頭命令

### ○白洲退蔵言上書の論理

### ○明治初年の百姓一揆をどうとらえるか

- 1970年まで階級闘争論 領主と百姓
- モラルエコノミー論 → 生存権論
- 幕末維新期の変革を経験した人々の一揆 農兵隊歎嗟掠

### ○白洲退蔵（幼名純太郎）

（文政12年＝1829の生れか）

安政4（1857）年12月父文五郎の死去にともない家督相続。19人扶持。

<安政7（1860）正月九鬼隆義が第13代藩主となる>

万延元（1860）年6月新知高130石、学校世話役

文久2（1862）年8月側用人

文久3（1863）年7月奉行役・町支配・郷中世話役

慶応4（1868）年3月20石加増（150石）

明治2（1869）年10月大参事

この後、横浜正金銀行取締役、大蔵省御用掛、岐阜県書記官を歴任。

明治24（1891）年6月没（63歳）